ふれあい看護体験感想文優秀作品宮崎県看護協会長表彰　受賞者

優秀賞

県立宮崎西高等学校　　３年　中島　理子（県立宮崎病院）

鵬翔高等学校　　２年　川上　詩乃（県立宮崎病院）

県立日南高等学校　　３年　田脇　那美（県立日南病院）

県立日向高等学校　　２年　黒田　結愛（千代田病院）

県立宮崎南高等学校　　１年　宮浦　美月（独立行政法人国立病院機構宮崎東病院）

（　）内は体験施設名

体験施設＜県立宮崎病院＞
県立宮崎西高等学校３年　中島　理子（なかしま　りこ）

私の将来の夢は助産師になることです。今、こうして助産師になるという夢を抱く以前から、私は医療関係の職業に憧れを持っていました。そして今回このふれあい看護体験という貴重な経験を通して、多くの学びを得て、自分自身の目標に対する強い意志を持つことができました。

実際に看護体験をするまでは、看護の仕事について、優しい・仕事が大変であるなどといった抽象的なイメージしか思い浮かびませんでした。しかし、一日看護体験をしたり、実際の現場で直接看護師の方々や患者の方々に話を伺ったりする中で、はっきりと具体的なイメージを持つことができるようになり、看護師という職業の素晴らしさに気づきました。私がこの看護体験を通して気づいたことの中で、最も印象に残っていることは、看護師の方々の強さです。看護師の方々と患者の方々のやりとりの様子を間近で見て、ただ単純に優しいだけでは、看護という仕事は務まらないことを知りました。優しさの中にも、病気に対して不安を感じて暗い表情をしている患者さんの心に寄り添い、マイナスの思考をプラスに変える力を持っているのです。まるで母親のような温かな強さに支えられて、みるみる明るくなっていく患者さんの表情を見て、“白衣の天使”の偉大さに気づきました。また、患者さんそれぞれに合ったケアを考え、小さな細かい変化にも気づき、すぐに行動に移す姿がとても格好良いと感じました。そして、体験後に座談会が開かれました。座談会では、産婦人科の看護師の方２人と、私たち高校生５人で、様々な話題に触れました。その中で、看護師の方が、看護において患者さんそれぞれの持つ力を見出すことが大事だとおっしゃいました。あれもこれもと全てを制限して回復を目指すことは看護ではないということを知り、この看護師の方の言葉に感銘を受け、改めて看護という職業の素晴らしさに気づきました。

ふれあい看護体験を通して、普段患者としてや病院の外からでは知ることのできなかった看護という言葉の意味の深さを知りました。この経験を糧に、将来の夢に向かって、努力していきたいです。

体験施設＜県立宮崎病院＞
鵬翔高等学校２年　川上　詩乃（かわかみ　しの）

私は今回、ふれあい看護体験で県立宮崎病院に行き、一日看護体験をさせていただきました。私の夢は助産師になることですが、進路について少し気持ちに迷いがあったことと、看護師という仕事についてよりよく学びたいという思いから、今回このふれあい看護体験に参加させていただきました。

初めに病棟に行き、実際に患者さんへのケアを行いました。私は患者さんの手を洗わさせてもらいました。とても緊張していて、少しぎこちなくなってしまったけれど、終わった後に患者さんから「ありがとう」と言ってもらえてとても嬉しかったです。

次にＮＩＣＵ、手術室、ドクターカーの見学をしました。普段見ることのできない所なので、とても興味深かったです。それぞれ細かい所まで様々な工夫がされていました。私が最も印象に残ったのはＮＩＣＵです。小さな命だけれども元気な姿でお母さんに会おうと懸命に生きる様子に非常に感動し、自分を産んでくれた母に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

最後の座談会では看護師さん達の生の声を聞くことができ、また、同じ参加者である高校生の看護職に就こうと思った理由などを聞くことができて、さらに視野を広げることができました。

いつも患者としてお世話になっていますが、今回看護師側になってみて、得たものがたくさんありました。私が助産師を目指そうと思ったきっかけは、小学校の授業で出産の映像を見たことです。それはある一人の女性の出産の前から後に密着したもので、その女性は出産後初めて自分の子を抱いた時、泣きながら喜んでいました。私もこんな素敵な場面に立ち会いたいと思い、助産師を目指すようになりました。今回ふれあい看護体験に参加してみて、助産師になりたいという気持ちは確かなものになりました。看護職には厳しいというイメージがあったけれど、実際はそれ以上に得るものがたくさんあるということを学びました。

今回の体験が助産師を目指す新たなきっかけとなりました。本当にありがとうございました。

体験施設＜宮崎県立日南病院＞
宮崎県立日南高等学校３年　田脇　那美（たわき　なみ）

私は、中学３年生の時に病気で長期入院をした経験から、看護に興味を持ち、今回この看護体験に参加させて頂きました。

実際に、外科、内科、循環器科病棟、ＮＩＣＵ等を見学して気付いた事は、病院は病気やけがを治すためだけの場所ではないということです。新しい命と向き合う妊婦さん、死を迎えることになる末期のガン患者の方、福祉施設に移る患者さんなど多岐に渡っていました。どんな状態であっても入院すると誰でも不安を抱えるものです。しかし、いかに安心して出産することができるか、また末期症状の患者さんがどのような死を迎えたいのかに着目して、看護師さんがサポートをしていたことで、どの患者さんも安心感に満ちていました。

私自身も、中学 3 年生の時に入院した際、はじめは分からないことばかりで不安でしたが、看護師さんが丁寧に薬の説明して下さったり、夜眠れない時に話を聞いて下さったことで安心できました。体験中に、私が入院していた病棟を通ることもあり、治療が苦しかった場所ではなく、多くの方に支えられた懐かしい場所に感じました。看護師さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、体験最後に看護師さんから「ＡＩによって無くなる仕事が多い中、看護師の仕事は無くならない」という話がありました。この話を聞いて私は、あたたかな笑顔は人間にしか無いから、看護の仕事はあり続けるのだと思いました。元気な時でも不安な時でも笑顔を見ると幸せになります。そして、他人の気持ちが分かるのも人間だけだと思うのです。人は傷付くのを避けて生きていく事は出来ません。私は、笑顔と多くの経験、そして白いナース服を着た時に感じた責任感を大切にしていきたいです。

私は、小児科に入院した経験があることから、障がい児看護に興味があります。様々な医療、福祉、教育機関と連携して病気や障がいと闘う子供たちと共に成長し続けたいです。また、多くの医療関係者の支えによりある健康に感謝し、自分の命も周囲の人の命も大事にしていきたいです。ありがとうございました。

体験施設＜千代田病院＞
宮崎県立日向高等学校２年　黒田　結愛（くろだ　ゆい）

「私がこの病院に入院したのはね…」そう言って、笑顔で話す患者さんは、私の祖母を思い出させました。私の祖母は去年の冬に天国へと旅立ちました。母が看護師のため、家で介護を続け、祖母の周りには最後まで家族全員がいました。私も祖母の介護を手伝い、母が祖母を介護する姿を見て、今までの「看護師になりたい」という思いが大きく膨らみました。

そして、今回参加した「ふれあい看護体験」では、初めて着るナース服に興奮しながらも、多くのことを学ぶことができました。病棟の患者さんとふれあう機会が多く、初めは、何を話していいのか分からず、とても緊張しました。しかし、「何を話そうか？」とニコニコしながら話を切り出してくださる患者さんを見て、とてもほっとしました。看護師として、患者さんと一緒に笑ったり、泣いたりできるのは、とてもすてきなことだなと思いました。

私は人見知りで、コミュニケーションが苦手です。しかし、今回、看護師だけでなく、ここにいる全ての人たちが、患者さん一人一人とのコミュニケーションを大切にしているということがよく分かりました。患者さんの中には、入院で長い間病院にいる人、定期で診察に来る人、今日来るのが、最初で最後かもしれない人、いろんな人がいます。でも、私はどんな患者さんにも、「この看護師さんでよかった」と思ってもらえるような、笑顔で接することのできる看護師になりたいです。

そして

大好きな天国の祖母へ

私が看護師になるのを楽しみにしていてね。

体験施設＜独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院＞
宮崎県立南高等学校１年　宮浦　美月（みやうら　みつき）

私の将来の夢そして目標は、母子はもちろん、その身近にいる家族に安心して幸せを届けられるような助産師になることです。今回「ふれあい看護体験」を半日、参加させて頂いてまた改めて、医療関係のお仕事に就いて人を助けたいと思いました。院長のあいさつで、「人間に必要なことは、水や光以外に愛情が必要だ」とおっしゃっていました。患者さんが安心して治療を受けられる、そして信頼してもらえるような看護師はとても素敵だなと思いました。

看護体験を通していく中で私はＡＬＳの患者さんに出会いました。部屋をのぞくと、自分の思いを文字で伝えるためのパソコンに「たくさんお話してください。よろしくね」とうたれていました。少し間違えながらでも必死に伝えようとしてくれたことが本当に嬉しかったです。また、手浴の体験をしました。自分の手とは違う感覚をもっているので、相手の立場になって、熱いのか冷たいのか、痛いのか苦しいのかなど、考えながら手浴するのは、とても難しかったです。また、看護学生も実習をされていたので助産師になるためにはどうすればよいのか、近道は何なのかなど、自分の夢についてたくさんお話をして頂きました。今日の「ふれあい看護体験」を通して、たくさんの方々に協力して頂いたので、その恩をいつか返すことができるように、これから三年間、しっかり頑張っていきたいと思います。